

# マネースクエア四季報 (2023/9)

## 2024年3月までの為替相場展望

「マネースクエア四季報」は、3カ月ごとに向こう6カ月の為替相場見通しを提示。四季報配信月を除く月末のマンスリー・アウトルックで見通しをアップデート、ウィークリー・アウトルックやその他のレポートで見通しに関わる相場材料を分析・解説します。

24年3月までをみれば、22年春ごろから利上げを続けてきた主要中銀の多くが、利上げの打ち止めを模索し、実際に打ち止めるタイミングとなりそうです。ただし、インフレ圧力が根強いなかで、利下げへの転換はわずかな事例にとどまりそうです。一方で、日銀はいよいよ金融政策の修正に踏み出すでしょうか。少なくとも市場では日銀の金融政策修正が現実味をもって受け止められそうです。

したがって、金融政策の循環的側面からは、「円高」への転換が想定できそうです。もっとも、内外金利差は、縮小するとしても相応に残存するでしょう。また、日本経済の地盤沈下、経済成長力の趨勢的な低下、経常収支黒字の縮小傾向などに鑑みれば、90年代半ばまでのような強烈な「円高」の進行は予想しがたいところです。

### 24年3月までの予想レンジ

通貨ペア	直近終値(9/22)	予想レンジ	方向性
米ドル/円	148.370	135.000 ~ 155.000	レンジ
ユーロ/円	158.070	150.000 ~ 165.000	レンジ
ユーロ/米ドル	1.06530	1.02000 ~ 1.13000	レンジ
ユーロ/英ポンド	0.87033	0.84000 ~ 0.90000	レンジ
英ポンド/円	181.620	165.000 ~ 195.000	レンジ
英ポンド/米ドル	1.22410	1.15000 ~ 1.35000	レンジ
豪ドル/円	95.568	90.000 ~ 100.000	レンジ
豪ドル/米ドル	0.64410	0.60000 ~ 0.69000	レンジ
豪ドル/NZドル	1.08070	1.05000 ~ 1.11000	レンジ
NZドル/円	88.435	83.000 ~ 90.000	レンジ
NZドル/米ドル	0.59602	0.55000 ~ 0.64000	レンジ
カナダドル/円	110.050	103.000 ~ 113.000	レンジ
米ドル/カナダドル	1.34830	1.30000 ~ 1.40000	レンジ
トルコリラ/円	5.462	4.000 ~ 7.000	下落
南アフリカランド/円	7.911	7.000 ~ 8.500	レンジ
メキシコペソ/円	8.626	8.000 ~ 9.000	レンジ

※予想レンジと方向性は、担当者個人がファンダメンタルズ分析やテクニカル分析などを基にして独自に判断したものであり、予告なく変更になる場合があります。  
※最終的な投資判断はご自身で行っていただきますようお願いいたします。

---

24年3月までのシナリオを以下の通り設定します(24年3月までの予想レンジはメインシナリオに基づくものです)。

#### メインシナリオ:金融政策の格差縮小に伴う緩やかな「円高」

日銀が金融緩和の修正へと動き始め、多くの中央銀行が利上げの打ち止めへと向かうため、全般的な円高が予想されます。ただし、日銀の利上げは小幅にとどまり、また多くの中央銀行は利下げ転換には至らないとみられます。内外金利差は相応に残存するため、円高は限定的となりそうです。

#### サブシナリオ:世界経済の落ち込みによるリスクオフと急激な「円高」

これまでの利上げの累積効果や中国経済の失速により世界経済が落ち込み、市場では強いリスクオフとなります。各国で株価が大幅に下落、多くの中央銀行が緊急避難的な利下げに踏み切り、市場金利も大きく低下。強い円高が進行します。

#### サプライズシナリオ:高インフレ下での各国中銀の利上げ再開と「円安」への回帰

労働需給のひっ迫を反映して各国で高い賃上げが実現。冬場の需要期入りしたエネルギー価格の高騰もあって、ピークアウトしたとみられていたインフレが再加速。多くの中央銀行が利上げを再開します。日銀は金融緩和を継続するか、修正するとしても小幅な利上げとなるため、円安が再燃します。本邦当局が円買い介入を実施しても、スムージングオペにとどまり、短期間の効果しか持たないでしょう。

#### ◇2024年3月までの主なイベント:

- 10月9-15日 IMF 世銀総会
- 10月12-13日 G20 財務相・中央銀行総裁会議
- 23年内? 日本衆議院解散総選挙
- 1月 米大統領予備選スタート(3月5日スーパーチューズデー)
- 2月24日 ロシアのウクライナ侵攻開始から2年
- 3月17日 ロシア大統領選挙

#### 米ドル/円:135.000円~155.000円

米長期金利は9月に入って昨年10月の高値を超えて07年11月以来の水準に到達しました。当時は、04年に始まる大幅な利上げからリーマンショックに至る過程でした。当時の様子を振り返り、現在に当てはめてみます。

FRBは住宅バブルによる景気過熱に対して04年6月から17回連続のFOMCで利上げを実施。06年6月に利上げを打ち止めました(政策金利のピークは5.25%)。長期金利がピークをつけたのは07年7月。利下げ開始が同9月で、12月にリセッション(景気後退)が始まりました。そして、リーマンショックが08年9月に発生……。

参考までに、当時と同じタイミングでイベントが起きると仮定します。今年7月がFOMCの利上げ打ち止めだったとの前提で、24年夏に長期金利がピーク、同秋に利下げが開始され、リセッションは25年初

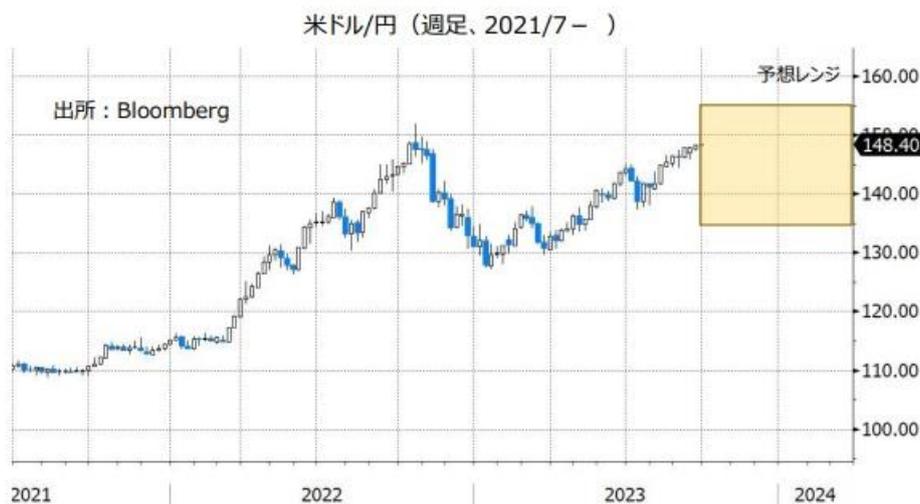
に開始・・・となります。このシナリオに基づけば、24年3月までの予測期間中は、長期金利が高止まり～強含むことで米ドル/円のサポートとなりそうです。

一方、日銀が金融緩和を縮小するとすれば、06年7月のゼロ金利解除以来となります。植田総裁は審議委員時代の2000年8月にゼロ金利解除に反対した経緯もあり(01年3月に量的緩和策が導入されたことから、植田氏は結果的に正しかったこととなります)、日銀は金融緩和の縮小には相当に慎重になるでしょう。それだけに実行した場合の初期インパクトは相応に大きくなるかもしれません。

<西田>

### 注目点・イベントなど

- ・FOMCは利上げを打ち止めるか。
- ・米国はリセッションにならないか。
- ・米シャットダウン(政府機能の一部停止)は回避されるか。
- ・植田日銀はYCCを修正するか。マイナス金利解除はいつか。
- ・日本の衆議院解散・総選挙はどうか。



**ユーロ/円: 150.000 円 ~ 165.000 円**

**ユーロ/米ドル: 1.02000 米ドル ~ 1.13000 米ドル**

**ユーロ/英ポンド: 0.84000 ポンド ~ 0.90000 ポンド**

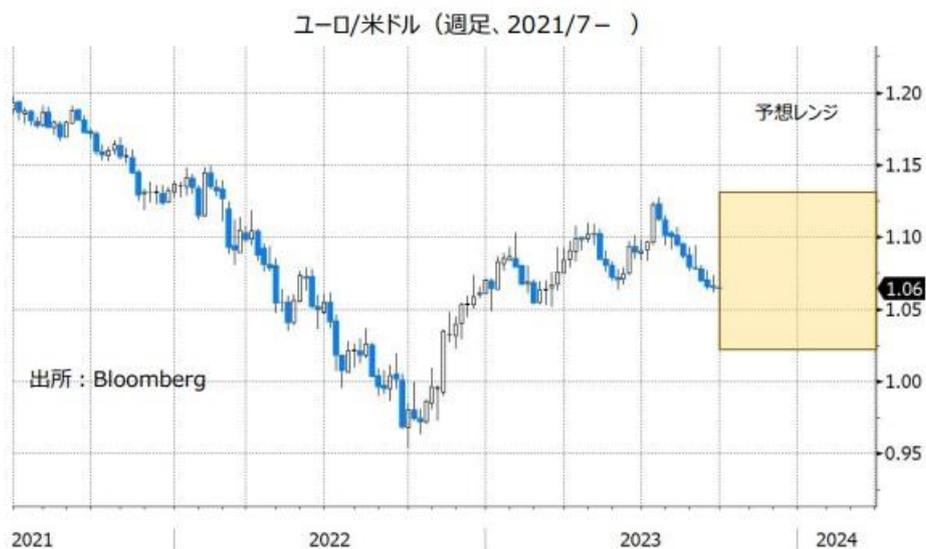
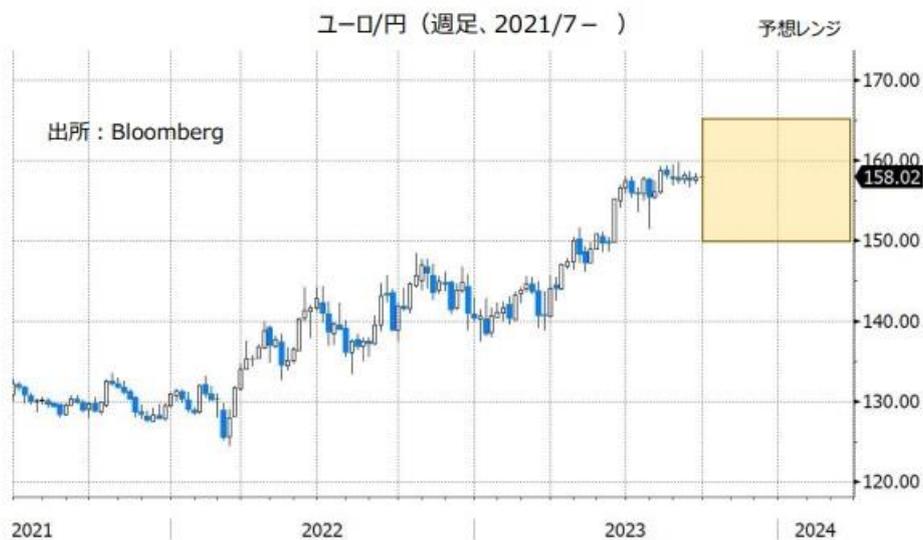
ユーロ圏は、ドイツやイタリアがリセッション入りした可能性が高く、スタグフレーション(景気停滞と高インフレの同時進行)の様相を呈しています。ECB内部では、ドイツなどを代表する委員が追加利上げに含みを持たず発言をしていますが、市場は7月の利上げで打ち止めと判断しているようです。ただ、利下げ開始は24年6月以降と予想されており、インフレが高止まりするなかでECBは高金利を維持しそうです。

もともと、ユーロ圏が本格的なリセッションに陥らないか注意が必要でしょう。足もとでエネルギー価格は落ち着いて推移していますが、冬場を迎えて22年夏～秋のように高騰するようであれば、ユーロ圏景気は下押しされるでしょう。

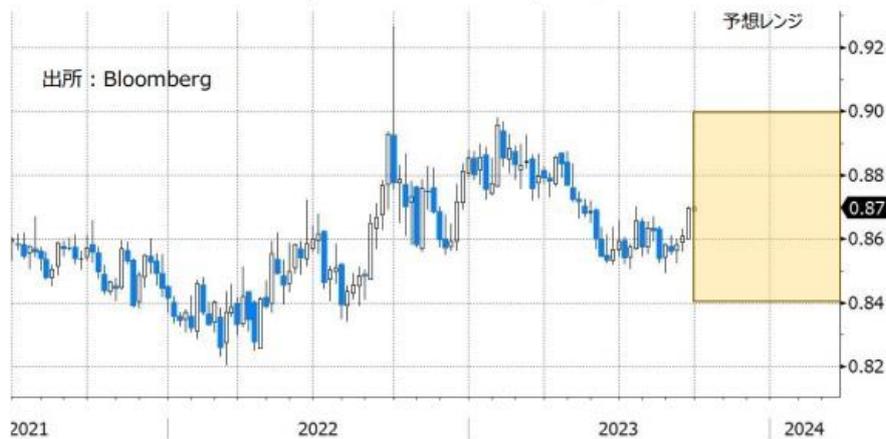
リセッションが深刻化した場合に、イタリアなど南欧諸国の財政収支の悪化が懸念されるかもしれませんが、ドイツとイタリアの長期金利差は足もとで落ち着いて推移していますが、イタリアの国債が売られる形で金利差が拡大するようであれば、ユーロに下押し圧力が加わりそうです。〈西田〉

### 注目点・イベントなど

- ・ECB 内のタカ派とハト派の議論がどちらに傾くか。
- ・冬場の需要期にエネルギー価格は高騰しないか。
- ・脆弱なイタリアやスペインの財政状況は悪化しないか。
- ・ウクライナ戦争の行方。



ユーロ/英ポンド (週足、2021/7- )



**英ポンド/円: 165.000 円~195.000 円**

**英ポンド/米ドル: 1.15000 米ドル~1.35000 米ドル**

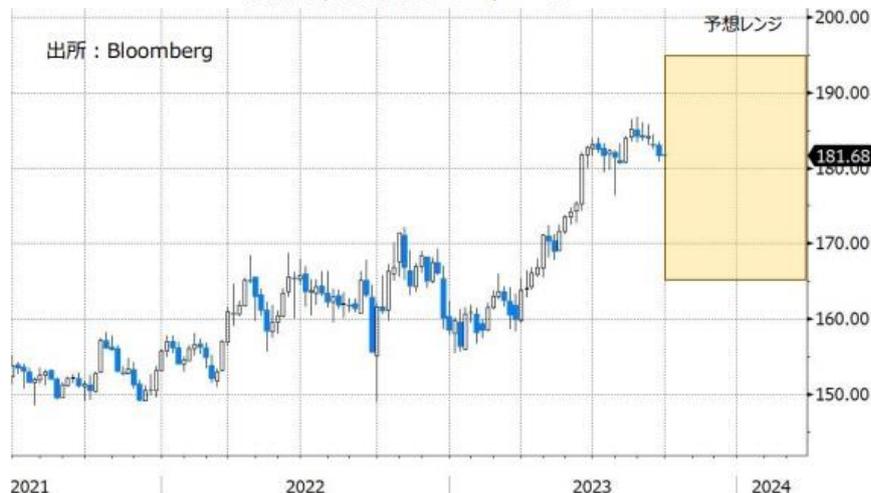
英国の 8 月 CPI コア(食料・エネルギー・アルコール飲料・タバコを除く)は前年比 6.2%と主要先進国の中でも高い伸びが目立ちます。5 月の 7.1%でピークアウトした可能性はあるものの、BOE が想定する「インフレ率の大幅な鈍化」は未だ実現していません。7 月の週平均賃金(賞与除く)は前年比 7.8%と高い伸びが続いており、「賃金⇄インフレ」のスパイラル的な上昇が引き続き懸念されるところでしょう。

9 月 25 日時点の OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、23 年 12 月~24 年 3 月にかけて追加利上げが 6 割弱織り込まれています。もっとも、FRB や ECB が利上げを停止するとみられるなかで BOE は利上げを続けることができるでしょうか。それとも今後の経済データ次第で利上げ観測が後退して、結果的に 8 月の利上げで打ち止めとなるのか、注目されます。<西田>

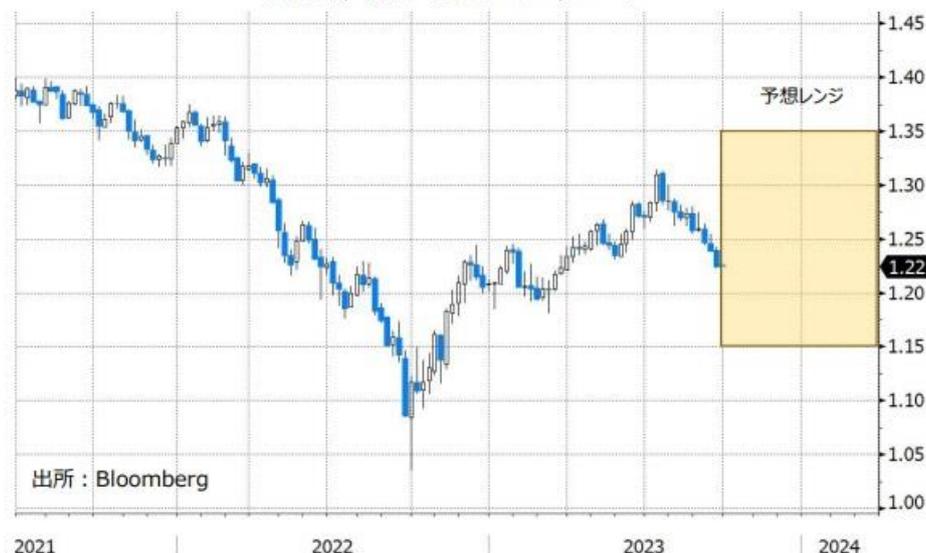
#### 注目点・イベントなど

- ・英国はリセッション(景気後退)を回避できるか。
- ・BOE の想定通りにインフレ率が大幅に鈍化するか。
- ・「賃金⇄インフレ」のスパイラル的な上昇を断ち切れるか。

英ポンド/円 (週足、2021/7- )



英ポンド/米ドル (週足、2021/7- )



**豪ドル/円: 90.000 円～100.000 円**

**豪ドル/米ドル: 0.60000 米ドル～0.69000 米ドル**

**豪ドル/NZドル: 1.05000NZドル～1.11000NZドル**

RBA(豪中銀)は、7月・8月・9月の3会合連続で政策金利を4.10%に据え置く一方で、9月会合時の声明で「ある程度のさらなる金融政策の引き締めが必要になるかもしれない」と表明。追加利上げに含みを持たせました。

市場では24年2月までにあと1回利上げが行われるとの見方が有力です。市場の金融政策見通しを反映するOIS(翌日物金利スワップ)によると、市場が織り込む利上げの確率は、10月3日の会合が約1割、11月までが約3割、12月までが約5割、24年2月までが約6割です(9/25時点)。今後発表される豪州の経済指標でRBAの利上げ観測が強まれば、豪ドルの支援材料になりそうです。

豪ドル/円は日銀の金融政策にも注目です。マイナス金利の解除など日銀の金融緩和策の修正が現実味を帯びれば、豪ドル/円は上値が重くなる可能性があります。

豪ドル/米ドルについては、米FRBの金融政策も重要です。FRBの利上げ観測が強まる、あるいは高水準の政策金利を長期間維持するとの観測が強まる場合、米ドルが全般的に強含んで、豪ドル/米ドルに対して下押し圧力が加わる可能性があります。

豪ドルは投資家のリスク意識の変化(リスクオン/リスクオフ)を反映しやすいという特徴もあります。主要国の株価が堅調に推移するなどしてリスクオン(リスク選好)の動きが強まる場合、豪ドル/米ドルや豪ドル/円の上昇要因になる可能性があります。

\*\*\*

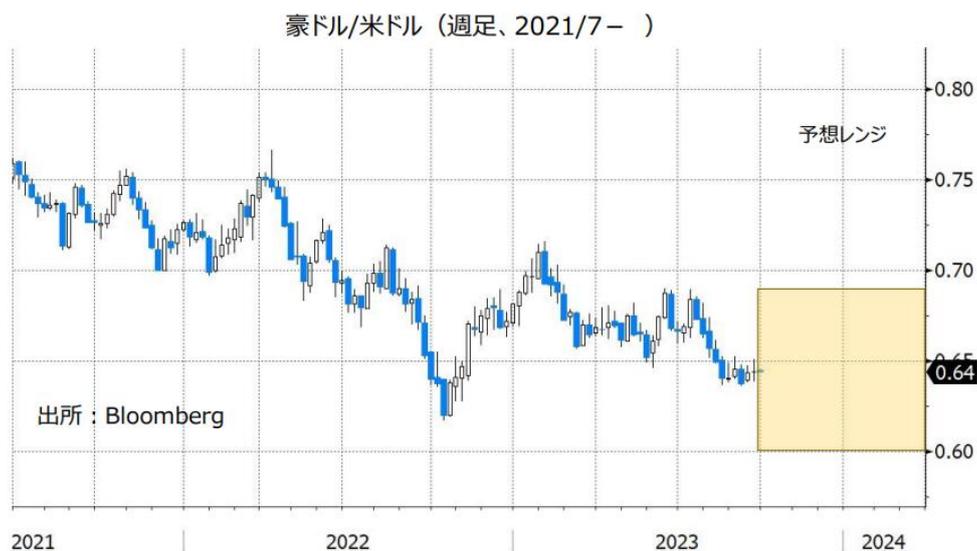
#### 【豪ドル/NZドル】

豪ドル/NZドルは22年11月以降、おおむね1.05NZドル～1.11NZドルのレンジで推移しています。

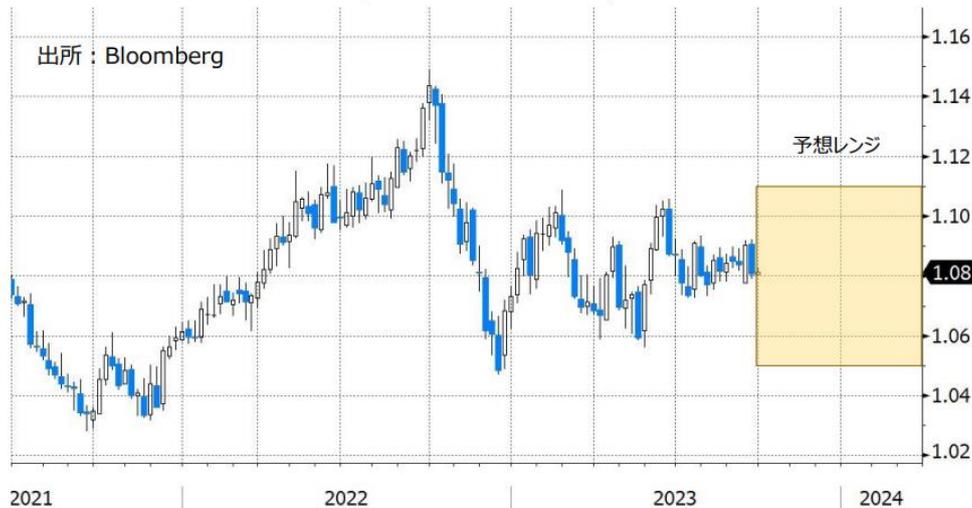
市場では、「RBA はあと 1 回利上げする」との見方が有力、RBNZ(NZ 中銀)に関しては「政策金利は据え置き」と「あと 1 回利上げする」とで見方が分かれています(RBNZ は後述の「NZ ドル/円」、「NZ ドル/米ドル」参照)。市場の見通し通りに RBA と RBNZ の政策金利が推移すれば、両者の政策金利の差は今後も大きく変化しないこととなります。金融政策面からみれば、豪ドル/NZ ドルは引き続き明確な方向感が出にくいと考えられます。〈八代〉

## 注目点・イベントなど

- ・RBA(豪中銀)は追加利上げをするのか。
- ・米 FRB と日銀の金融政策。
- ・投資家のリスク意識の変化。リスクオンは豪ドルの上昇要因。
- ・資源(主に鉄鉱石)価格の動向(資源価格の下落は豪ドルの下落要因)。
- ・中国経済の動向。中国経済の減速は豪ドルにとってマイナス材料。



豪ドル/NZドル（週足、2021/7- ）



**NZドル/円: 83.000 円～90.000 円**

**NZドル/米ドル: 0.55000 米ドル～0.64000 米ドル**

RBNZ(NZ 中銀)は、7 月と 8 月の 2 会合連続で政策金利を 5.50%に据え置きました。8 月会合の声明では、「政策金利は予見可能な将来において抑制的な水準に維持する必要がある」と改めて表明され、政策金利は今後も据え置かれることが示唆されました。

市場の見方は、「RBNZ の利上げはすでに終了した」と「あと 1 回利上げが行われる」とで割れています。市場の金融政策見通しを反映する OIS(翌日物金利スワップ)によると、市場が織り込む 24 年 2 月までの確率は「現行水準に据え置き」と「利上げ」が五分五分です(9/25 時点)。

NZ の 4-6 月期 CPI(消費者物価指数)が 10 月 17 日に発表されます。これが強い結果になれば、市場では 11 月 29 日の会合での利上げ観測が強まると考えられます。そして実際に利上げが行われれば、NZドル/円は堅調に推移しそうです。

日銀の金融政策にも注目です。日銀の金融緩和策の修正が現実味を帯びれば、NZドル/円は上値が重くなると考えられます。

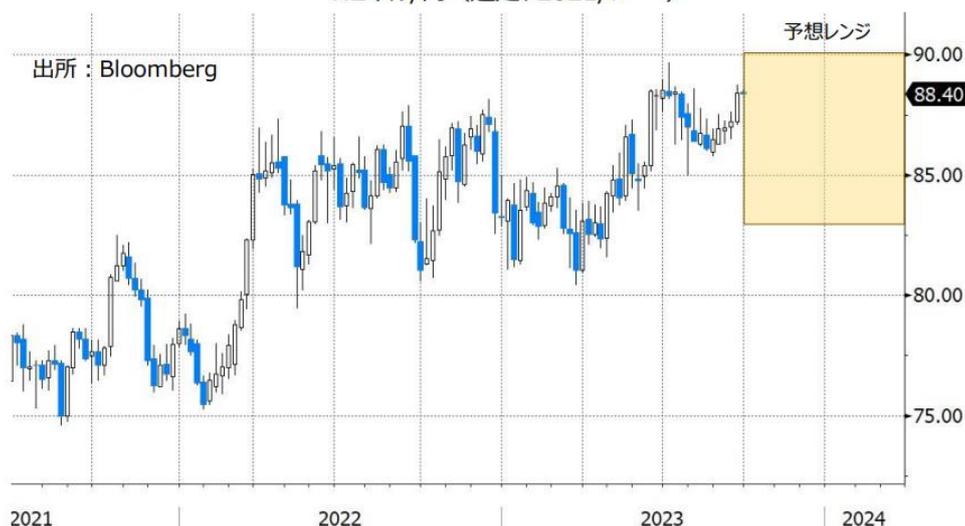
NZドル/米ドルについては、米 FRB の金融政策も重要です。米 FRB の追加利上げ観測が強まる、あるいは FRB は高水準の政策金利を長期間維持するとの観測が市場で強まる場合、米ドルが全般的に強含んで、NZドル/米ドルに対して下押し圧力が加わる可能性があります。

NZ の総選挙が 10 月 14 日に行われます。選挙は混戦になると予想されており、どの政党も単独過半数を獲得できない可能性があるようです。NZ の政局不安が長引く場合、NZドルの売り材料になるかもしれません。〈八代〉

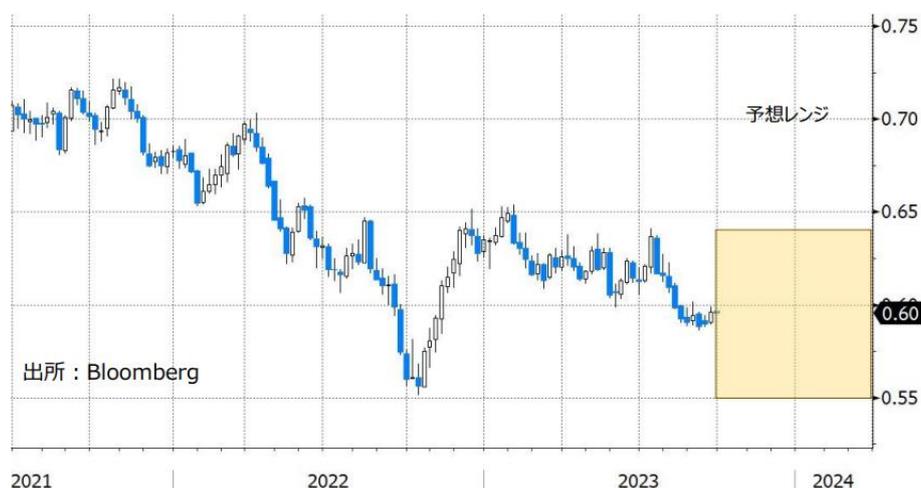
## 注目点・イベントなど

- ・RBNZ(NZ 中銀)は追加利上げをするか。
- ・米 FRB と日銀の金融政策。
- ・10 月 14 日に NZ の総選挙。
- ・投資家のリスク意識の変化。リスクオンは NZドルの上昇要因。
- ・中国経済の動向。中国経済の減速は NZドルにとってマイナス材料。
- ・乳製品(NZ 最大の輸出品)価格の動向(乳製品価格の上昇は NZドルの上昇要因)。

NZドル/円 (週足、2021/7- )



NZドル/米ドル (週足、2021/7- )



**カナダドル/円: 103.000 円～113.000 円**

**米ドル/カナダドル: 1.30000 カナダドル～1.40000 カナダドル**

BOC(カナダ中銀)は、9月6日の政策会合で政策金利を5.00%に据え置くことを決定。6月と7月の2回連続で実施した利上げを再び停止しました。

BOC は声明で、「(BOC)理事会は基調的なインフレ圧力が持続することを引き続き懸念しており、必要なら政策金利をさらに引き上げる用意がある」と表明。追加利上げに含みを持たせました。

市場では、BOC はあと 1 回利上げを行うとの見方が有力です。日銀が金融緩和策を維持する中で、BOC が利上げすれば、金融政策面からカナダドル/円は堅調に推移しそうです。ただし、日銀の金融緩和策の修正が現実味を帯びれば、カナダドル/円は上値が重くなる可能性があります。

米 FRB は 23 年中にあと 1 回の利上げを想定しているようです。BOC と米 FRB の金融政策スタンスに差はなく、またこの状況に変化がなければ、米ドル/カナダドルは明確な方向感が出にくいと考えられます。22 年 9 月から続く 1.30 カナダドル～1.40 カナダドルの動きが今後も継続しそうです。

原油価格(米 WTI 原油先物が代表的な指標)に大きな変動がみられれば、原油価格の動向が材料になりそうです。カナダは原油を主力輸出品とするため、原油価格の上昇はカナダドルにとってプラスです。

<八代>

### 注目点・イベントなど

- ・BOC(カナダ中銀)はどこまで利上げするか。
- ・米 FRB と日銀の金融政策。
- ・資源(特に原油)価格の動向(資源価格の上昇はカナダドル高要因)。



## トルコリラ/円:4.000 円～7.000 円

TCMB(トルコ中銀)は9月21日の政策会合で、5.00%の利上げを行うことを決定。政策金利を25.00%から30.00%へと引き上げました。利上げは4会合連続です。

TCMBは声明で「金融引き締めは、インフレ見通しの大幅な改善が達成されるまで、タイムリーかつ段階的な方法で必要なだけさらに強化される」と表明。追加利上げを示唆しました。

TCMBの6月以降の利上げ幅は合計21.50%。インフレの抑制に向けてTCMBが積極的に利上げを行っていることは、トルコリラを支援しそうです。

ただし、トルコの実質金利(政策金利からCPI上昇率を引いたもの)は依然として大幅なマイナスです(9/22時点でマイナス28.94%)。エルドアン・トルコ大統領は9月6日に「金融引き締めの支援を受けてインフレ率を一桁に引き下げる」と、利上げを認めるかのような発言をしました。ただ、トルコでは24年3月に統一地方選が予定されています。統一地方選に向けてエルドアン大統領がTCMBに対して利下げ圧力を加えるのではないかと懸念もあります。

トルコリラが持続的に上昇するためには、TCMBが今後も適切に利上げをできるかどうか、エルドアン大統領が金融政策に介入しないこと、これらが必要と考えられます。〈八代〉

### 注目点・イベントなど

- ・TCMB(トルコ中銀)は適切に利上げできるか。
- ・エルドアン大統領は金融政策に干渉しないか。
- ・トルコの外貨準備は枯渇しないか。



## 南アフリカランド/円:7.000 円～8.500 円

SARB(南アフリカ中銀)は、7月・9月と2会合連続で政策金利を8.25%に据え置きました。会合では5人の政策メンバーのうち3人が据え置きを支持し、2人が0.25%利上げすることを主張し、据え置きの決定は僅差でした。

クガニャゴ SARB 総裁は会合後の会見で、「現在の政策金利の水準は(景気)抑制的であり、インフレ見通しとインフレ期待の上昇に対応したものだ」との認識を示したものの、「インフレ見通しに対する上振れリスクは残っている」と指摘。「(政策)委員会は引き続き警戒しており、リスクが顕在化し始めれば行動する用意がある」とし、追加利上げに含みをもたせました。

市場では「SARB の次の一手は利下げであり、早ければ 24 年前半に利下げに転じる」との観測があるなか、SARB がタカ派的な姿勢を示したことは、南アフリカランドにとってプラス材料になりそうです。

SARB は「利下げを検討するには、CPI(消費者物価指数)がインフレ目標(3~6%)の中間値である 4.5%近辺にとどまっていることを確認する必要がある」との姿勢を示しています。南アフリカの CPI は 5 月が前年比 6.3%、6 月が 5.4%、7 月が 4.7%、8 月が 4.8%でした。CPI 上昇率が 4.5%近辺で推移する状況が続けば、SARB は利下げを検討し始めると考えられます。利下げ観測が強まる場合、南アフリカランド/円は上値が重くなりそうです。

南アフリカでは発電設備の老朽化などによって慢性的な電力不足が続いており、計画停電が頻発しています。停電は経済活動を阻害するため、計画停電が続く場合には同国景気をめぐる懸念が市場で強まる可能性があり、その場合には南アフリカランド/円が下押しするかもしれません。〈八代〉

## 注目点・イベントなど

- ・SARB(南アフリカ中銀)の利下げ観測が強まるか。
- ・計画停電が続く場合、南アフリカランド/円の下押し要因になる可能性あり。



## メキシコペソ/円:8.000 円~9.000 円

BOM(メキシコ中銀)は、5月・6月・8月の3会合連続で政策金利を11.25%に据え置きました。8月会合時の声明では、「政策金利を現在の水準に長期間維持する必要がある」と表明され、利下げは想定していないことが示唆されました。

BOMの政策金利はFRBなど主要中銀と比べて高く、またメキシコの実質金利(政策金利からCPI上昇率を引いたもの)は大幅なプラスです(9/22時点で6.61%)。CPIの鈍化スピード次第では、BOMは利下げを検討し始める可能性があるものの、政策金利と実質金利の高さが維持されれば、メキシコペソは堅調に推移しそうです。

米国など外国に住むメキシコ出身の労働者によるメキシコへの送金(本国送金。外貨売り/メキシコペソ買い需要)もメキシコペソを下支えすると考えられます。外国からメキシコへの送金額は、7月まで前年比で39カ月連続増加しました。

原油価格(米 WTI 原油先物)が大きく変動する場合、原油価格の動向も材料になりそうです。原油価格が上昇を続けられれば、メキシコペソにとってさらなるプラス材料になりそうです。

メキシコペソ/円は、日銀の金融政策にも注目です。日銀の金融緩和策の修正が現実味を帯びれば、メキシコペソ/円は上値が重くなる可能性があります。〈八代〉

### 注目点・イベントなど

- ・主要国と比べて高いメキシコ中銀の政策金利と実質金利。
- ・資源(特に原油)価格の動向(資源価格の上昇はメキシコペソ高要因)。



今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
9月25日		【南アフリカ】振替休日(伝統文化継承の日)			
	17:00	【独】IFO企業景況感指数(9月)	85.0	85.2	85.7
9月26日	23:00	【米】消費者信頼感指数(9月)	105.0	105.5	106.1
9月27日	10:30	【豪】CPI 前年比(8月)	5.1%	5.2%	4.9%
9月28日	21:00	【独】EU基準CPI速報値 前年比(9月)	4.8%	4.5%	6.4%
	28:00	【メキシコ】BOM政策金利	11.25%	11.25%	11.25%
9月29日		【中】祝日(国慶節の連休。10月6日まで)			
	10:45	【中】財新製造業PMI(9月)	51.0	51.2	51.0
	18:00	【ユーロ圏】CPI速報値 前年比(9月)	4.6%	4.5%	5.2%
		【ユーロ圏】コアCPI速報値 前年比(9月)	4.9%	4.8%	5.3%
	21:30	【米】PCEデフレーター 前年比(8月)	3.5%	3.5%	3.3%
【米】PCEコアデフレーター 前年比(8月)		4.0%	3.9%	4.2%	

市場予想はBloomberg、9月25日9:00現在。発表日時は日本時間。

## <執筆者>

### 執筆者プロフィール



#### 西田 明弘(にしだ あきひろ)

市場調査部 チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン(現マネースクエア)入社。  
米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

### 執筆者プロフィール



#### 八代 和也(やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン(現マネースクエア)に入社。  
豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。

また、相場の行方を保証するものではありません。

お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

---

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---